

ウィンタースクール「昔の遊び 凧つくりに挑戦しよう」

凧をつくり、昔の遊びを体験します。

と き 令和3年1月8日（金）

・午前の部 午前10時～12時

・午後の部 午後1時30分～3時30分

ところ 別海町郷土資料館

内 容 昔の遊び 「凧作り」

対象者及び募集人員

小学生 午前・午後の部 各4名 先着計8名

申込等

12月25日（金）までに電話・FAX・メールにてお名前と電話番号をお知らせください。



ふるさと講座自然系第2回目

「初冬の野鳥観察会 ユキホオジロ・コクガンを観察しよう」を開催しました。

11月29日（日）参加者19名で開催しました。講師は、野付半島ネイチャーセンター長の藤井薫氏です。野付湾は、コクガンの渡りの最大の中継点として知られています。これまでの調査により、夕方に湾内から春別の海岸にねぐら入りのため多くのコクガンが移動することがわかっています。今回の観察会は、この移動の様子を観察しました。日暮れと同時に湾内からコクガンが一斉に飛び立ち、数千羽の群れが移動する様子は、圧巻で豊かな自然を持つ野付半島ならではの観察会となりました。



今年度の調査から その1 「藤野家について」

今年度、本町の近世・近代に大きな関わりのある藤野家についての調査を行っています。幕末に「加賀家文書」のほとんどを書き残した「加賀伝蔵」も藤野の用人として働き、明治初期に開拓使によって設置された「別海缶詰所」の払い下げを受けたのも藤野家でした。今月号から何回かに分けこの「藤野家」について紹介したいと思います。

【近世・藤野家概史】

藤野家は、代々四郎兵衛を名乗る近江国愛知郡日枝村（現、滋賀県犬上郡豊郷町）の高持百姓で豪農の家系でした。蝦夷地と関わるのは、5代四郎兵衛の弟藤野喜兵衛が始まりです。

喜兵衛は、天明元年（1781）12歳で福山（松前）に渡り、姉の夫であった萬屋宮川清右衛門に丁稚奉公に入りました。寛政12年（1800）20歳で独立し福山（松前）枝ヶ崎に蝦夷地本店を設け、以後藤野喜兵衛を営業名とし、商標を又十（またじゅう）、屋号を柏屋と称し「東西蝦夷地土産物運輸売買ノ業」を始めました。

文化2年（1805）頃には7艘の船を所有し、翌文化3年（1806）の余市場所の請負を皮切りに、文化・文政・天保期には、利尻・礼文・宗谷・斜里・根室・国後・択捉など奥蝦夷地に進出しました。請負場所の漁場開拓や漁網の考案など生産力を高めていき、天保期には、松前の大富商の筆頭にあげられ、資産3、4万両と推定されるまでの豪商となりました。

松前藩からの信頼もあつく、復領の時喜兵衛所有の常昌丸を御用船として買い上げ、藩主松前章廣は三厩（現青森県）からこの船で松前に帰り、松前藩は、常昌丸を長者丸と改名して、喜兵衛に預けその管理を任せました。

藤野家は代々飢饉、凶作、火災等の災害時には米を原価で分たり、無料で配布するなど各地の困窮者に多大な援助を行うとともに、寺院建立、藩への寄付、道路開削、難破船の救助等の社会奉仕をしていました。

藤野家の商いは、近江にある本家が経営全体に目配りをして統括していました。

国内には、「松前藤野喜兵衛本店」（のち箱館に移転）、「箱館藤野猪兵衛店」（支店のち松前に移転）、「松前藤野庄兵衛店」、「大坂近江屋熊蔵店」「京都近江屋徳蔵店」がありました。



別海町郷土資料館だより No.257

発行日 令和2年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 ふるさと講座自然系第2回目の観察会は、昨年に引き続き4回目です。コクガンのねぐら入りの行動を見る事が出来るのは、野付半島だけという、とてもレアな観察会です。夕日に染まる空にコクガンが飛翔する姿は、まさしく圧巻で毎年多くの人を魅了します。こうしたことも多くの研究者のお陰です。感謝に堪えません。(K.I)